

「沈む北斗七星 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

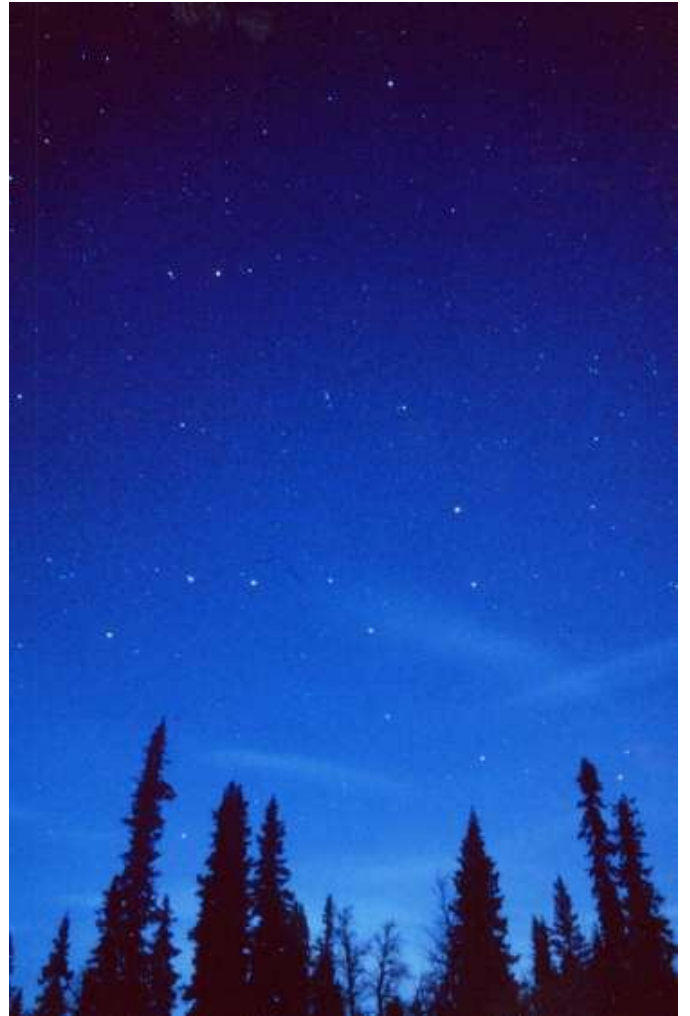
全天の星座の中で、誰でもその形を見つけられるのは、冬のオリオン座、夏のさそり座、それに北斗七星ぐらいだろう。「北斗七星」は、正式な星座名ではない。おおくま座の恒星のうち、柄杓(ひしゃく)の形をした星の並びである。



「昇る北斗七星」 群馬県嬬恋村 / C.Tanaka

北斗七星は、天球上では北極星に近い(赤緯値が大きい)ので、日本付近の緯度だと、一年中ほとんど地平線下には沈まない。「冬の星座」とか「夏の星座」という言葉の使い方は、およそ午後 8 時~10 時ごろに、南中(子午線)に近い位置にあり、見やすい星座のことをさす。北斗七星の場合、一年中「見ごろ」なので「いつの季節の星座」というのが決めにくい。

しかし北斗七星やおおくま座は、一応「春の星座」ということになっている。上の写真のように冬の終わりから春にかけて、北東の地平線から昇って来る姿が、柄杓が立っているように見え、一番形が整って見えるからである。



「沈まない北斗七星」 C.Tanaka

スウェーデン・ヨックモック郡(北極圏・北緯 67°)

北極星(現在はこぐま座のポラリス)の地平高度は、およそ観測地の緯度と一致する。東京は北緯 35° なので、北極星もおよそ地平高度 35° に見える。緯度の高い地域ほど北極星は高く見え、その周囲を日周運動をする北斗七星の地平高度も高くなり、一年中完全に沈まない「周極星」となる。



左図はアラスカ州の州旗のデザインである。アラスカ州も緯度が高いので、スウェーデンと同じように北

斗七星は周極星となる。北極星も描かれている。北極星の位置は正しい。ただ、実際の北極星の明るさは、北斗七星の恒星とほとんど同じである。